

荒町2部



練習の成果

仙台市ミニテニス協会主催の2012年度春季大会が4月8日、仙台市宮城野体育館で開かれた。中学生から喜寿をむかえたミニテニス愛好者48チームがエントリー。日頃の練習で身につけた技術を発揮し熱線を展開した。

開会式では、大和チームの小田浩一、美奈ご夫妻は「未曾有の大震災から1年、未だに過酷な仮設住宅住まいを強いられている仲間たち、今大会を通じて親睦と友情を一層深め1日も早い復興を願う・・・」と選手宣誓に会場ほ大きな拍手が飛び交った。

大会は、年間成績による3部制の団体戦で、各チーム女子、混合、男子の3ダブルスで編成する。試合は7点3ゲームマッチ。各部とも二つのブロックに分かれ、1チームが4試合ずつ

戦う特別リーグ戦を行い、ブロック1位同士が決勝戦を争った。

2部決勝戦は、荒町―荒浜Bとの顔合わせ、2―1の接戦を制したのは荒町、惜敗の荒浜B成田幹夫選手「チャンス逃した」と悔しがった。

(写真 荒町チーム)



2部優勝の古山健造選手は「守備からリズムを作るのがうちの持ち味。強打をカットでしっかりかえそうと、チームで話し合ったのがよかった」と目を細めた

やまがた3部初V

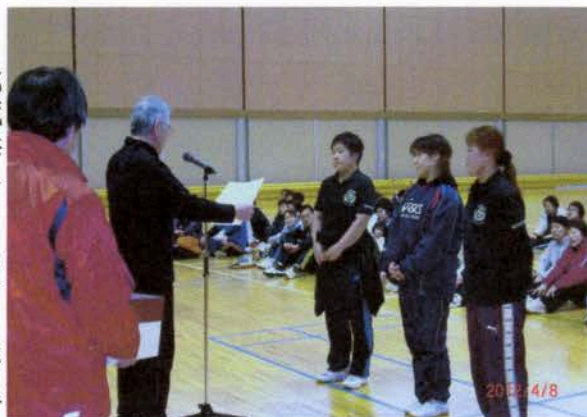
(写真やまがたフレンズ表彰)



3部は、やまがたフレンズBが2―1でれもんに勝利し初優勝を手中にした。優勝の田中

紘子会長は「嬉しい。昨年よりレベルアップしている、練習量を積むのが一番で、時間をかけて上位との差を約めたい」と意欲をしめした。

(写真 1部優勝の荒浜A)



1部荒浜A―JOY・A、手の内を知り尽くす両チーム、鋭いカットや強打の攻防は観客を魅了した。最後に上手さをみせた荒浜Aが優勝した。

(仙台市・渡辺勝利)

仙台市民総体ミニテニス大会

勝利目指し強打の応酬

仙台市民総合体育大会、第16回ミニテニス大会が平成24年4月22日、仙台市体育館で開催、ミニテニスを楽しむ仲間たち44チーム315名が参加して開かれた。

開会式では、選手宣誓を引き当てるアルファの大坪桃子、菅井幸子の両選手が「花粉症と老眼で目が震んでも若さと美貌のため全力で戦います」の宣誓に、会場は和やかな雰囲気と化した。

〔写真〕右大坪選手と左菅井選手



ミニテニスは直径12センチのカラフルなボールを使い、いろんな角度に変化する、魔球もあり、強烈なスマッシュありと

幅広い年代層に親しまれているスポーツだ。参加チームは年間成績による11部3部に分かれて試合を行う。予選リーグは各部とも二つのブロックに分かれ、1チーム4試合ずつの「特別リーグ戦」。各部上位1チームが決勝戦を戦った。



〔写真〕2部準優勝の若林、工藤真美選手

2部の決勝戦は荒町が2-1の接戦で若林Aに勝ち今期早くも2勝を手中にした。惜敗した若林工藤真美選手は「この敗戦を糧に、またやり直し届かなかった頂点を次回大会へ努力します」と流れる汗を拭った。

1部は、ミントAが2-1で荒浜

Aに競り勝ち久々に優勝した。さすが1部の攻防、ボールの早さや切れ、畳み掛ける攻撃どれ一つ取って見ても迫力があり、観衆をうならせた。

熱戦を制したミントA、須田みき選手は「ここが大事という場面で、どれだけ集中できるかを意識できるようになった」と語った。

3部決勝は、やまがたフレンズAと松陵が顔を合わせた。1対1でむかえた男子ダブルスはプレッシャーのかかる戦いとなった。互いに持ち味を出しあつての攻防、を破り優勝した、やまがたフレンズAが接戦を制した。

〔写真 やまがた〕



〔仙台 渡辺勝利〕

98人 理論・実技学ぶ

平成24年度仙
台市ミニテニス協
会「審判講習会」が
5月4日仙台市宮
城野体育館で開か
れた。連休の中にな
ので受講者数が懸
念されたが多くの
愛好者が参加した。
講師に審判法は
「阿部勝彦審判長、
記録法は丹野克之
理事長」午前は、審
判理論と記録記入
法の講義、参加者は
サーブスの方法や
プレー中の失ポイ
ント等、記録では勝
敗率の計算方法等
熱心にメモをとつ
たり質問等も多く
関心度の高さを実
感した。

審判講習会



(写真 阿部 勝彦 審判長)

午後はコート設
営の講習後、六つの
コートに分れ、主審
副審、線審の実技を
学んだ。

(写真 熱心に講義を受ける受講者たち)



中間で審判法の
手本をおこなった。
主審に阿部勝彦審
判長、副審は相原義
彦副審判長、「プレ
ーボール、アウト、
ポイント」と大きな
声とハンドリング
でフルセットを行
った。

阿部審判長は「選
手はプレーに審判
員は競技規則に精
通しプレーヤーが
動きやすい環境づ
くりが大事」と説明。
相原副審判長は「副
審は主審の補佐役、
主審、線審の気付か
ない違反等に対し、

主審に注意を促す
役目でもある」と説
明した。

(写真、大きな声で
プレーボールと、ナ
イスハンドリング
する、大和チームの
大友かおるさん)



閉会式では、加藤
昌徳副会長は「公認
審判員として今後
の活躍を期待しま
す」と語り、鈴木孝
一副会長は「主審、
副審、線審の連携を
密に、一層の努力
を」と話した。

(仙台市
渡辺勝利)

第5回大会・熱戦展開・観客魅了

第5回東北ミニテニス交流山形大会がH24年5月13日山形市総合スポーツセンターで開催された。開会式では、幸運？にも一番くじを引き当てた山形フレンズAの浦山秋子選手右と小笠原妙子選手が「私達選手は



おしんのように辛抱強く、決勝に進みたいと言う欲望をおさえ日頃の激しい練習を思い出し、精一杯悔いの残らないプレイをし

ます」と宣誓した。

試合はA部門（フリー）、B部門（50〜62才）、C部門（63才以上）の3部門で行った。

《ZUNDA・連覇》

A部門の決勝はZUNDAチームがストレートで能代愛好会Aチームを制しこの大会2連覇を手にした。優勝した島影愛選手写真左と須田みき選手は「試合前は緊張して苦しかったけど、始まったら自分たちのプ



レーに専念でき楽しかった」と口をそろえた。B部門、C部門は残念ながら他協会のチームに優勝をさらわれてしまったが、仙台のレベルの高さを証明できた大会だった。試合進行も山形、仙台の息もピッタリ、スピーディ迅速な運営だった。

懇親会も盛会で、田中紘子会レベルの競い合いがで長の歓迎の挨拶ではじまり、参加者のテーブルスピーチなど交流をふかめあつという間に2時間が過ぎた。続いてスナックでの二次会は喉自慢のおっさんおねいさん達のカラオケなど等わいわいガヤガヤと盛り上がった。

「レセプションも大盛況」

写真左から能代斎藤会長、秋田野中会長、山形田中会長、秋田市体育協会長谷川専務理事、



写真、義援金のお礼を述べる松木秀高理事



（仙台市 渡邊勝利）

〃復興元年〃を機に全国大会

未曾有の大震災、復興元年を機に第1回全国ミニテニス仙台大会がH24年6月24日、仙台市宮城野区の宮城野体育館で開かれた。大会には日本ミニテニス協会加盟団体の選手40チームが参加熱戦を展開した。

写真 齊藤建雄会長



開会式では、ご来賓を代表して仙台市体育協会齊藤建雄会長は、「スポーツを通して震災復興への貢献、人同士の絆を」とご挨拶。JOY熊谷行雄選手は「健康維持と交流を念頭に、楽しくプレー」をと宣誓。

A部門決勝は能代愛好会とエイトフォーAとの対戦となった。1勝1敗でむかえた混合戦



優勝した、能代愛好会大高圭選手右と大柄正勝選手

1対1のファイナル戦、全ての技を駆使しての攻防に大声援が飛び交う中選手たちは真剣そ

のもの、5対5あと1点で優勝、14回続いた強烈な攻防エイトフォー佐々木悠亮選手のコースを狙った一打が僅かにサイドラインを割りゲームセット。佐々木選手は「この敗戦を糧に、またやり直したい」届かなかった頂点を来季へと誓った。優勝した能代大柄正勝選手は「うれしいの一言です、最後まで高いレベルの高い競い合いができた結果です。運営もすばらしかった」と語った。

蓮田市ミニテニス連盟は、予選全勝で勝ち上がったが順決勝で惜敗した。杉崎祐希選手（会長）は「チームは粘りを見せたが一步及ばなかつた。本大会を今後も続けて下さい」と励ましの言葉も頂いた。

B部門は、男鹿ミニテニス協会が2-1でチームAKB（秋田）を下し優勝した。〃写真〃

参加された選手の皆様から、ミニテニス大会を通じて交流と友情を深めることができました。1日も早い復興をと温かい言葉をいただき再会を誓い閉会した。（仙台市 渡辺勝利）



仙台市ミニテニス協会夏季大会

白熱の攻防大声援飛交う

48チームが参加した仙台市ミニテニス協会夏季大会が平成24年7月1日、仙台市の青葉体育館で開かれた。総合運営、相互審判を取り入れており、選手たちは午前8時一斉にコート設営から本部のセッティングと作業をこなし、20分で大会会場が完成した。

開会式では、南小泉チーム江村征祐選手22才〓写真〓は「練習の成果を発揮し優勝目指し頑張ります」と力強い選手宣誓。



大会は年間成績によ

る3部制の団体戦、各チームは女子、混合、男子の3ダブルスで編成する。各部とも二つのブロックに分かれ、1チームが4試合を行う特別リーグ戦を行った。

ストロークの応酬が続く。時にはトップスピンの効いたドライブスマッシュが小気味よく決まる。その度に歓声が飛交う。また、繊細な動きのボール操作。これがミニテニスの醍醐味だ。3部優勝の連坊Bチーム後藤義雄選手〓写真〓中央は「チームが一人丸となり、最後まで高い



レベルの競い合いができた結果です」と流れる顔の汗を拭った。

惜敗した、トリコロール丹野浩子選手は「もてる力を出し尽くしたが相手が一枚上だった」と残念そうにボールをみつめていて。

2部は、1勝1敗、後のない男子ダブルス戦、5対8から逆転で優勝を手中にした荒浜Bチーム中沢正昭選手〓写真〓中央は「サーブ3本失敗したが、なんとか踏ん張れた」と語った。



惜敗した若林チーム、漆沢孝浩選手は「力んで

少し玉が荒れてしまった。これからはいい場面です」と雪辱を誓った。

1部は荒浜Aチームが3対0でJOY・Aを下し優勝した。荒浜Aチーム、末永薫選手〓写真〓右は「久しぶりに1部、2部のダブル優勝...感無量です、3・11の



大震災、未だ仮設住宅住まいの仲間、多くの皆さんから義援の芳志、優勝は皆さんからの励ましがあつたからです」と人同士のつながり「絆」を強調した

(仙台市 渡辺 勝利)

若林区協会 実技講習会 後援 仙台市協会

ミニテニスの技術向上と楽しさを知っていただくことを目的に、平成24年8月4日、仙台市若林体育館で実技講習会を行った。

強くなりたい・上手くなりたいと思うミニテニス愛好者118人が受講、コート8面はフル稼働。講師は、仙台市協会の若手トップ選手5人と日本ミニテニス協会公認指導員が担当、「やってみせる・やらせる」の反復で行った。

「ラケットの握り方、基本姿勢、フットワーク、フォアの基本スイング、スイ

ングのポイント、トップスピン、リターン」等の基本指導を行った。写真球出しをする佐々木悠亮講師。



写真球出しの菅原徳夫協会理事。



写真ラケットの握りを指導する川村賢一朗講師。



写真ボールのインパクトやスピンを指導する末永薫講師。



午後からは、サーブの打ち方、スピンの効いたドライブ、サーブやミニテニス特有の前後左右に曲がる変化球等などの後試合形式を行った。写真



「試合形式」

「試合を見つめる」



写真フォーメーションを指導する佐藤一臣講師。



講師の5人は「基本の構え、基本のスイングが不可欠、スイングのポイントをは、テイクバックを完了させ体感を使

写真球出しをする古賀昭則講師。



つた上半身のひねりで強いボールが打てる。ミニテニスはボールの回転が基本、ラケットは下からボールを擦り上げしっかりとラケットを振り抜く」と口をそろえた。

最後に、加藤昌徳副会長は「今日学んだ技術を今後の試合で発揮できるよう精進を」と閉会のあいさつ。

(仙台市渡辺勝利)